

平成 25 年度 阿賀野市国語部 活動報告

部長 小林 英子

1 研究主題

「確かな読み、豊かな読みの力をつけるための指導の工夫」

2 研究の概要

4月23日(火) 第1回国語部会 組織の編成・役割、事業計画の作成

6月11日(火) 第2回国語部会 研修会

講演テーマ「単元をつらぬく言語活動を位置付けた授業」

講師 山崎勝之様(長岡市立川崎小学校)

11月15日(金) 第3回国語部会 水原小学校「教育研究発表会」授業参観・協議会参加

3年生「食べ物のひみつ教えます」 永井加代子 教諭

5年生「新潟県紹介ブックを作ろう」 松本 朋浩 教諭

3 研究の実際

(1) 第2回国語部会(研修会)

長岡市立川崎小学校の山崎勝之先生より「単元をつらぬく言語活動を位置付けた授業」と題した御講演と御指導をいただいた。

＜御講演・御指導から＞

単元をつらぬく言語活動では、「表現すること(書くこと)」が重要である。しかし、現在の国語の授業では、指導計画の第2次「読む活動」と第3次「表現する活動」がバラバラになっている状態が多く受けられる。これでは目的意識や相手意識が弱くなってしまふ。そこで、指導計画全体を見据えた単元構成を熟考する必要がある。講師先生の紹介では以下のような教材文で、具体的な活動紹介が行われた。

活動例：2年生「スイミー」

「スイミーのかしこい場面をみつけよう」という単元を貫く課題を提示した後、作者レオ・レオニ自身が描いた絵本の挿絵も活用する。教科書では省略されていた挿絵を本文と比較することで「スイミーのかしこさをじっくり考える」といった活動が有効である。

活動例：2年生「お手紙」

第2次「読む活動」の後、本文の場面から「自分の好きな場面を見付け述べ合う」という活動を行う。さらに、作者アーノルド・ローベルの他の作品を並行読書し、「自分の好きなところを述べ合う」活動を展開していくことが有効である。

(2) 第3回国語部会(水原小学校「教育研究発表会」に参加)

水原小学校の教育研究会に参加した。研究主題「言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を高める指導のあり方」の3年次の取組として行われた3年生・5年生の国語の授業を参観した。「学び合い」取り入れた授業展開、総合的な学習との接続を考えた「書く活動」に焦点化された授業であった。協議会にも参加し、1つ1つの校内研究の成果・課題を共有し、目標に向けて全校一丸となって取り組んでいる姿も大変参考となった。

4 成果と課題

昨年度は第2回部会の「講師による講演会」を受けて、部員による「実践報告会」を第3回部会で行ったが、今年度は3回目に「教育研究発表会参加」を取り入れた。講演会で学んだことを自校・自教室で実践し、部会メンバーで紹介し合うことも研修に有効であるが、今回のように他校の研究会に参加することも自己の視野を広げる大変有効な取組であると考えられる。部員が多忙感に追われるのではなく、それぞれの自校・自学級での教育活動に役立てられる研修内容を企画し実践していくことを今後とも考えて行かなければならない。